

農林抄

水門の開放を命じた佐賀地裁判決に対して、当時の若林農相は、一方では控訴つまり開門を拒否しつつ、他方では開門を前提とする環境アセスも行うと言明したのだが、国民には何ともすっきりしない判断だった。

開門する意思があるのかどうか、そしてなぜ今更アセスなのかという疑問を抱いたのは筆者だけではない。2002年の短期開門調査はアセスなしに実施に移されたし、常時全開門の場合の影響と対策についても、実は01年以降、農水省や各種委員会が行ってきたシミュレーションや検討で既に分かっていたからである。

開門すれば調整池に海水が入るのだから、塩害を避けるために農業用水を別途確保すべきことは、アセスで塩分濃度を予測してみるまでもなく自明である。別水源が確保されれば、アオコ毒を含む調整池水を使わずに済むようになり、入植農家のメリツトも小さくない。干拓地の背後にある高度下水処理施設からの放流水を水源に利用する方法が、循環型社会にふさわしいと考えられる。浸透塩害や潮風害についても、開門後に塩分上昇のデータが出始めた時に農地や作物に除塩処置を施せば、解決可能な問題だ。

また常時開門では、調整池水位は潮汐と連動するようになるから、現在の管理水位であるマインナス1よりも低くなって防災上有利になる時間帯だけでなく、満潮で不利になる時間帯も生じるから、背後低平地の冠水を防ぐための排水

諫早開門の実現を新政権に期待する

と云われても仕方がない。

民主党は政策集において、「潮受堤防開門によって入植農業者の営農に塩害等の影響が生じないよう万全の対策を講じ、入植農業者の理解を得ます」と公約した。赤松大臣には、まずは開門の政治決断を行い、公約に従って農業・防災対策に着手し、農家や長崎県の理解を得るための行動を期待したい。政権交代後の今も、法廷で国は漁業者側との開門協議のテーブルに着くことすら拒否し続けているが、この頑なな姿勢は大臣の指示に基づくものなのだろうか。民主党には、今回の総選挙で政権交代を実現させた有明海沿岸漁民や国民を落胆させないでほしいと切に願いたい。

機場の新增設も必要になる。この工事完成には3年もの期間を要するが、それでも工事を行いながらの開門が可能だし、直ちに開門すべきだと提言したい。すなわち、開門当初は上限水位を現在及び短期開門時と同じくマインナス1に保ちながら、徐々に調整池の汚濁水を海水と入れ替えていけば、防災機能を現行レベルに保ったままで、毎年繰り返しされる湾内の漁業被害を防げるのだ。その後は防災対策の進捗状況に応じて、徐々に上限水位を上げていき、排水機場がすべて完成したら常時開門に移行し、有明海の潮流を少しでも回復させようというのが段階的開門法である。開門自体はアセス法の対象事業ではないのだが、それでも農水省がアセスに拘泥するのは、開門の先送り策か回避策

週刊農林

(羽生 洋三・有明海漁民・市民ネットワーク) (十二月五日・第二〇七〇号)

行政刷新会議「事業仕分け」終了

も く じ

解説&論評 行政刷新会議「事業仕分け」が終了
 中山間直接支払制度は事業費削減のみ… 4
 森林整備モデル事業は「廃止」

食料自給率1%向上させる増産量は？
 「米粉用米」が最も現実的 …… 8
 日本生活協同組合連合会 食・農・村基本計画に意見書

自給力強化に繋がる施策を …… 9
 食料安全保障会議 コメ中心の穀物戦略を樹立 …… 10

日本種苗協会「日本のふるさと野菜」Ⅳ
 機能性も注目される伝統野菜 …… 11

経営・構造 …… 12 食品・安全 …… 16
 米麦・水田 …… 12 環境・技術 …… 16
 畜産 …… 13 林野 …… 17
 畑作・果樹 …… 14 水産 …… 18
 農協・経済 …… 15

ホームページ <http://nourin.vis.ne.jp/>